11月 教室・行事予定



日	月	火	水	木	金	土
1 休館日	**2** **百歳体操** 10:00~11:00	3 休館日 文化の日	**4** **フォークダンス** 9:00~12:00 **クラフト手芸** 13:00~15:00 **桜会** 16:30~18:00	**5** **桜会** 10:00~12:00	**6** **健康体操** 13:20~14:20 14:30~15:30 **桜会** 16:30~18:00 **南子ども会** 19:00~20:30	7 休館日 籐工芸 9:00~15:00
8 休館日	**9** **百歳体操** 10:00~11:00	**10** **詩吟** 10:00~12:00 **ヨガ** 13:00~15:00 **茶道** 13:30~15:30 **桜会** 17:00~18:30	**11** **クラフト手芸** 13:00~15:00 **桜会** 16:30~18:00	**12** **桜会** 10:00~12:00	**13** **健康体操** 13:20~14:20 14:30~15:30 **桜会** 16:30~18:00 **南子ども会** 19:00~20:30	14 休館日
15 休館日	**16** **百歳体操** 10:00~11:00	**17** **詩吟** 10:00~12:00 **ヨガ** 13:00~15:00 **朗読** 13:30~15:00 **桜会** 17:00~18:30	**18** **フォークダンス** 9:00~12:00 **クラフト手芸** 13:00~15:00 **巡回健康相談** **（山の下）** 13:30~15:30 **桜会** 16:30~18:00	**19** **オカリナ** 9:30~12:00 **桜会** 10:00~12:00	**20** **そば打ち** 9:00~11:00 **健康体操** 13:20~14:20 14:30~15:30 **桜会** 16:30~18:00 **南子ども会** 19:00~20:30	21 休館日
22 休館日	23 休館日 勤労感謝の日	**24** **詩吟** 10:00~12:00 **ヨガ** 13:00~15:00 **茶道** 13:30~15:30 **桜会** 17:00~18:30	**25** **クラフト手芸** 13:00~15:00 **桜会** 16:30~18:00	**26** **桜会** 10:00~12:00	**27** **健康体操** 13:20~14:20 14:30~15:30 **桜会** 16:30~18:00 **南子ども会** 19:00~20:30	**28** 休館日
29 休館日	**30** **水彩画** 9:00~12:00					

大町会館（隣保館）は、人と人とが、出会い、交流し、つながる場です。また、差別や排除のない多様な生き方や、これからの社会のあり方を語り合う場です。

「人と人とがつながり合う社会」に関心のある方、「何かを始めたい」と思っている方、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

各種相談・お申込みは、大町会館まで、お気軽にお問合せください。

大町会館（0897−55−5393）



大町会館だより 11月号

2026（令和8）年 11 月 No.320
発行：西 条 市 大 町 会 館

〒793-0035 西条市福武甲 1644-1
TEL・FAX （0897） 55-5393
E-mail omachikaikan@saijo-city.jp

様々な人権課題について考えよう
～ 「部落差別」と「アイヌ人差別」 ～

最近、中学生時代に読んだことのある、一つの小説を読み返しました。石森延男さんの書いた**『コタンの口笛』**という作品です。その本との出会いが、私が「アイヌの人々」や「アイヌ人差別」について知る最初のきっかけでした。

物語の舞台は北海道です。アイヌの血を引く、中学生の姉「マサ」と弟「ユタカ」は、学校でも数々の「いじめ」に遭い、時には不当な窃盗の疑いまでかけられます。激しい差別や偏見にさらされながらも、姉弟は、周囲の理解者に支えられながら、自らの誇りを見出し、たくましく生きていくというお話です。

今回、もう一度『コタンの口笛』を読みながら、中学生時代の自分が、「マサ」や「ユタカ」が味わった苦しみや悔しさに胸を痛め、「同じ人間なのに、なぜ生まれの違いだけで、こんなに差別されなければならないのだろう」と強く憤ったことを思い返しました。

「大町会館」は、**部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくすこと**を目的として活動しています。一見、「部落差別」と「アイヌ人差別」は異なる問題に見えるかもしれません。確かに、アイヌの人々が明治以降の「同化政策」によって土地や独自の言葉、豊かな伝統文化を奪われたという歴史があるのに対し、部落差別は「住む地域や生まれ」を理由に「違いのないところに違いをつくられた差別」であるという背景の違いがあります。

しかし、どちらの差別も「結婚や就職で不当に排除されたり、ネット上の誹謗中傷など心ない言葉で傷つけられたりしてきた」という共通の苦しみを持っています。

様々な人権課題について学ぶことは、例えば「部落差別」という、一つの「差別の本質」を、より深く理解することにつながります。理由や背景が違っても、偏見から人を遠ざけ尊厳を傷つける「差別の根っこ」は、すべて同じだからです。

「部落差別」をなくす視点を軸に据えながら、あらゆる差別のない社会を目指すこと。それこそが「大町会館（隣保館）」の役割です。誰かの痛みに共感し、歴史を正しく知ることから、誰もが自分らしく生きられる温かい地域を、みんなでつくっていきましょう。

以下は、「コタンの口笛」の中で、父「イヨン」が、マサとユタカに言い聞かせた言葉です。

「わしは、アイヌ人たちを、もっと人間として、見てもらわねばならんと思うんだ。アイヌを認めてもらうということよりも、人間としてとりあつかってもらいたいんだよ。アイヌとして生きるのではなく、人間として立たねば――と思うんだ。（略）こんどは、おまえたちの番だ。帆をあげるんだな。風を受けて、新しい考えに乗って広い海に出るんだな。先祖の人たちは小さな丸木舟に乗って、クジラをとったもんだ。その意気ごみでな、ユタカ。」

（講談社 青い鳥文庫「『コタンの口笛』第1部あらしのうた」より）

～毎月 10 日は人権を考える日～
人権デューデリジェンスと人権感覚

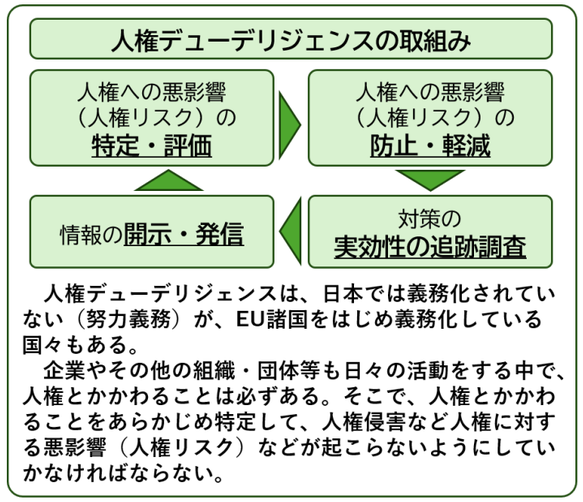
2011年、国連は「ビジネスと人権に関する指導原則」を採択した。それに伴い、企業は「人権デューデリジェンス」の取組みをすることになった。



「ママがもうこの世界にいなくても 私の命の日記」から

（映画とタイアップした厚生労働省のポスター）

厚生労働省HPより



人権デューデリジェンスは、日本では義務化されていない（努力義務）が、EU諸国をはじめ義務化している国々もある。

企業やその他の組織・団体等も日々の活動をする中で、人権とかかわることは必ずある。そこで、人権とかかわることをあらかじめ特定して、人権侵害など人権に対する悪影響（人権リスク）などが起こらないようにしていかなければならない。

左のポスターは 21 歳で大腸がんを宣告され、24 歳で旅立った「遠藤和（のどか）」さんが娘と夫に遺した日記を、小学館が 2021 年に出版。著者が実際に体験した闘病生活や娘への思いを綴った実話である。この書籍を東映が映画化し 2026 年 10 月 2 日全国公開となった。俳優の「川口春奈」さん「高杉真宙」さんなどが出演している。

この映画の公開にあたって、厚生労働省がこの映画とタイアップしたポスターを制作し全国の病院等に配布した。このポスターは、がんと診断された本人やご家族に向けて利用できる支援制度やサービスについてまとめたパンフレットの周知を目的としたものであった。しかし、ポスター内に大きく記載された映画タイトル「ママがもうこの世界にいなくても」といったフレーズや死を連想させるビジュアルが、病院等に掲示される点について、SNS等で厚生労働省に批判の声が多数寄せられた。

寄せられた意見（一部）

○「今、闘病している患者が病院の外来で見た時、心臓を鷲づかみにされる思いがします。」

○「乳がん罹患者です。利用できるサービスの周知はとても助かります。ただ、この映画はとても素晴らしい映画ですが、このポスター（厚生労働省が配布したもの）は当事者たちのことを考えたものかどうかお考えいただきたい。」

厚生労働省は、全国に配布したポスターを回収した。厚生労働省は、「患者の皆様やそのご家族への配慮に欠ける点があった。不快な思いをおかけし、心より深くお詫び申し上げる」としている。

厚生労働省のいう「配慮に欠ける点」こそ「人権リスク（人権に対する悪影響）」のことであり、人権デューデリジェンスという方法を通じて、人権リスクをあらかじめ特定しなければならなかったのではないだろうか。そのためには、**「自分事として捉える人権感覚」**が必要なのである。

西条市人権教育協議会　西条市人権共生課

『第４回人権啓発リーダー育成講座』を開催しました

大町公民館と大町会館の共同開催で、NPO 法人「西条自然学校」理事長 山本 貴仁さんにお越しいただき、「防災と人権」と題してご講演をしていただきました。

大町地域の地形から見た災害について、詳しく教えてくださり、参加者の皆さんは、地元ということで、興味深く、熱心に参加されていました。





「生き残ること」
が
最重要です!

『第2回大町会館協力委員会』

9月10日（木）19時より協力委員会を開催しました。10月25日（日）に開催する、大町会館文化祭に向けて、準備や当日の役割分担について確認しました。

協力委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。文化祭が盛大に開催できますようにご協力をお願いいたします。



ご協力を
お願いします。



『神戸コスモス子ども会県外研修』

研修のテーマを「共に生きる」とし、徳島県鳴門ドイツ館と徳島県立防災センターへ研修に行きました。子どもたちは、「共に生きる」ための人権の尊重と、命を守る行動について学びました。

10/25(日)大町会館文化祭で、研修報告をしますのでお楽しみに!!







